特　集

# 表現と鑑賞を行き来する

学習指導要領では,
「表現」と「鑑賞」の関連を図ることが重視されています。
表現活動が鑑賞に生かされ,鑑賞活動が表現に
生かされていくよう,指導計画を工夫していく必要があるでしょう。
本特集では,「名画に入り込もう!」という,表現と鑑賞が
密接に関連した授業をご紹介します。
生徒たちは,絵画作品を鑑賞し,模写していきます。
さて,どのような作品ができあがるのでしょうか。

撮影 鈴木俊介

授　業　リ　ポ　ー　ト

# 名画に入り込もう!

千代田区立九段中等教育学校
落合良美先生　小野征一郎先生
×
2年2組（生徒数38名）

九段中等教育学校は，東京都千代田区立の中高一貫校。緑に囲まれた大きな校舎で６学年の生徒たちが学ぶ。校内に足を踏み入れると，廊下にはたくさんの生徒作品が掲示されている。特に目を引くのが名画を模写した作品だ。葛飾北斎の「冨嶽三十六景 神奈川沖浪裏」，ダリの「記憶の固執」など，教科書にも掲載されているような作品が並ぶ。それらをよく見てみると，なんと作品の中には作者である生徒の写真が貼り込まれている。

「絵画作品を模写した後，自分の写真を貼った作品です。この『名画に入り込もう！』という実践を始めて，今年で７年目になるんですよ」。そう話すのは落合良美先生。毎年，２年生は５月頃からこの作品制作に入り，９月の文化祭でお披露目するらしい。今回，その授業を取材させてもらった。

教科書や画集の中から，自分がいいなあと思う作品を選んでごらん，と小野先生。

## STEP 1
## なぜ絵に入り込むのか

「皆さんには,これから文化祭に向けて制作をしてもらいます。廊下に３年生の先輩が昨年描いた作品が掲示されていますよね。あのように好きな絵画を模写し,その後，自分の写真を貼り込んで,作品をつくってもらいます」。落合先生はそう切り出した。

そして，ティームティーチングで落合先生といっしょに指導している小野征一郎先生が，教科書や画集に掲載されている絵画を生徒たちに見せる。「これからみんなに絵画作品を一つ選んでもらいます。画集を一冊ずつ渡しますので，１分間見たら，後ろの席の人に回してください。そうやって順番にいろいろな画集を見ていきましょう」。

画集を手にした生徒たちは真剣な表情でページをめくっていく。全員

「この絵，描くのが難しそう」「チャレンジしてみれば?」。友達と意見を交わしながら絵を選ぶ。

「うーん，どの絵にしようかな」。さまざまな画集を見ながら，どの作品にするか決める。

森村氏の作品をモニターで鑑賞しながら，絵の中に入り込むことの意味を生徒たちに捉えさせる。

が画集を見終わったら，画集を机に置いて自由に歩き回り，自分が描いてみたいと思う作品のページに付箋紙を貼る。「選んだ絵とは文化祭まで向き合っていくことになります。だから，自分が心から『いいなあ』と感じた作品を選ぶようにしようね」と先生がアドバイス。

作品が決まったら，作品名・作者名・選んだ理由をワークシートに記入させ，何人かの生徒に発表させた。井上直久（なおひさ）の「ジパングの虹」という幻想的な作品を選んだ生徒は「一枚の絵の中で，雨が降っているところと，晴れているところがある。いろんな色が使われて一見ゴチャゴチャしているけど，なぜか見ていてホッとする絵です。この不思議な世界に向き合いたいと思って選びました」と発表。生徒によって作品選びの視点がさまざまで，おもしろい。

次に先生は，美術家・森村泰昌（やすまさ）氏の著書『「美しい」ってなんだろう』（理論社）の一節を紹介した。

森村氏はゴッホの絵に「なる」ことで，ゴッホの気持ちや作品に込めた思いを深く感じ取っていったことを話し，実際に森村氏の作品をモニターに映して見せた。生徒たちは，「わあ！」「おもしろい」「ちょっと気持ち悪いかも（笑）」などと，一気に盛り上がる。

先生は，今回模写した作品に自分の写真を貼り込むのも，森村氏と同様の意図があると告げた。「自分が絵の中にどのように入り込むか考える過程で，作者の気持ちを考えたり，作品をより深く味わっていってほしいなと思います」。

次時より，いよいよ制作に入る。

## 授業展開
（全14時間）
生徒の活動

**第1・2時　導入・作品選び**
- 昨年度の2年生が制作した作品を見て，イメージをもつ。
- 教科書や画集から，好きな作品を選ぶ。

**第3時　鑑賞**
- 森村泰昌氏の作品を鑑賞し，絵画に入り込むことの意味を考える。
- 制作手順を確認する。

**第4-12時　鑑賞・制作**
- 自分が選んだ作品をさまざまな視点から鑑賞する。
- 模写をする。

**第13・14時　撮影・完成**
- 作品にどう入り込むか決め，写真撮影をする。
- 自分の写真を作品に貼り込む。

## 指導計画

**準備するもの**

生徒　教科書，筆記具

教師　森村泰昌氏の作品や著書，画集，作品のカラーコピー，トレーシングペーパー，ケント紙，マスキングテープ，アクリル絵の具，綿棒，画材各種（コースゲル，モデリングペーストなど），デジタルカメラ，ワークシート

**学習目標**

- 自分が選んだ絵画を，さまざまな視点から鑑賞することができる。
- 自分なりに鑑賞したことを踏まえ，それを作品に表現することができる。

**評価規準**

- 積極的に作品制作に取り組んでいる。（美術への関心・意欲・態度）
- 作品のどこにどのように入るか，またそこから生まれる物語について想像を膨らませ表現している。（発想や構想の能力）
- 模写を通じ，混色・ぼかし・筆使いなどの技法や，画材の多様な表現方法を理解し，実践している。（創造的な技能）
- 作品の中に自分が入ることで，作者の制作意図や心情を読み取り，作品について自分なりの感想をもっている。（鑑賞の能力）

特集
表現と鑑賞を行き来する



STEP 2

## 絵の中を「散歩」する

まず，生徒たちが選んだ作品をカラーコピーしたものが配布された。生徒たちが扱いやすいよう，A4判でラミネート加工がされている。

「これから，みんなにはこのコピーを見ながら模写をしていってもらいます。制作に入る前には，毎回必ず『1分間散歩』という時間を取ります。1分間，自分が選んだ絵の中を散歩して，その中で気づいたこと，見たこと，感じたことをメモしていってもらいますよ」。落合先生はそう話し，ワークシートを配布した。

毎時間，模写する前に作品を1分鑑賞する時間を設ける。それを落合先生は「1分間散歩」と名づけた。今回の授業では，計5回の「散歩」が行われる。散歩するときは，毎回視点が示される。小さくなって散歩したり，大きくなって散歩したり，時間帯を変えて散歩したり…。さまざまな視点で絵に入り込むことで，作品世界をより深く感じ取ることがねらいだ。

例えば，Y君（右写真）。選んだ作品は，ピカソの「三人の音楽師」だ。最初の散歩では，小さくなって絵の中に入った。「いろいろな形があって，部分的に見ると人の形に見えない。でも散歩していくと形が融合して人に見えてきた」とワークシートにメモしている。3回目の散歩では大きくなって絵全体を見渡すように散歩した。そして「指揮者が手を振っているのが見えた」とメモしている。小さくなったり大きくなったりして絵の世界に入り込むことで，人の形に見えなかったものが人に見え，さらに作品には描かれていない指揮者の存在まで感じ取ることができた。

いっぽうHさん（ページ下）は，ゴッホの「ひまわり」を散歩する中で，作品には描かれていない太陽や青空を感じ取った。そして，太陽に向かって咲くのびやかなひまわりを描いていった。

1分間集中して作品を見つめ，その中を散歩する。

上／1分間散歩で見たことや感じたことを発表。　右下／散歩して気づいたことなどをワークシートにメモ。左下／「三人の音楽師」をどう散歩したか発表するY君。

### Hさんの1分間散歩

ゴッホ「ひまわり」※

**1回目　小さくなって散歩**
自分が小さくなって，絵の中を自由に散歩しましょう。
▼
「一つ一つの花の形が違う。意外と大きく咲いていて立派だった。季節は夏で，空は青い」

**2回目　隣の人の絵の中を散歩**
隣の人と絵を交換して，隣の人の絵の中を散歩しましょう。
▼
（隣のM君より）
「花瓶にゴッホのサインがあるのを発見した」

**3回目　大きくなって散歩**
自分が大きくなって，絵全体を見渡して散歩しましょう。
▼
「太陽に向かって力強く花が伸びている。とてもきれいだ」

**4回目　時間を変えて散歩**
その絵は何時頃の絵でしょうか。その12時間後に散歩しましょう。
▼
「この絵は午後3時ぐらいだと思う。12時間後は深夜の3時。花たちは夜が嫌いだからしぼんでしまう」

**5回目　絵を逆さまにして散歩**
絵を180度回転させて逆さまにした状態で散歩しましょう。
▼
「ひまわりの花たちが，花瓶に吸い込まれているようだった」

※1889年制作　ゴッホ美術館（アムステルダム）蔵の作品

一つ一つの花が夏の太陽の光を浴びて伸びていると感じたHさん。のびやかで力強いひまわりを描いていく。

STEP 3

## 模写をする

模写は右の【模写の流れ】の手順で行う。絵の具は，アクリルを使う。生徒たちは１年生のときに使ったことがあるので,「重ね塗りができる」「乾くと耐水性になる」などの特長について，まず全員で確認。そして，先生が「水を多めに混ぜると色が薄くなり，塗っても輪郭線が透けて見えます。初めに薄く色を塗って，その上から濃い色を重ねていくといいですよ」とアドバイスした。

筆を持つと，生徒は真剣な表情で，黙々と作業を進めていく。模写は作者の制作過程を追体験する表現活動でもある。何度も色をつくり直し，作品の色味に近づけようとする生徒，作品の細部をじっと見つめながら慎重に筆を進める生徒など，それぞれに作品と向き合い，模写を通して絵の世界に入り込んでいく。

先生は，「ここは綿棒を使ってぼかしたほうがいいよ」,「もう少し水を多めに混ぜて薄く色を広げてごらん」など，机間指導をこまめに行う。また，コースゲルやモデリングペーストなどの画材を絵の具に混ぜると，ザラッとした表現や質感のある表現ができることを告げ，必要があればそれらも使うよう指示した。

また,制作の過程で,自分の作品を３年生の先輩に見せてアドバイスをもらうという活動も行う。台紙（P8参照)に,制作中の作品のカラーコピーと,作品から想像を膨らませて書いた物語の文章を貼り,それを３年生に渡す。先輩はそれを見て，アドバイスを記入。昨年度同じように制作した３年生からは「色を塗るときに同じ方向へ筆を動かしたほうがいい」「物語を読んだけど，もう少し静かな世界観を表現できたほうがいい。色を暗めにしてはどうか」など，具体的なアドバイスが書かれている。

「わあ，先輩からだ」。生徒たちは，アドバイスシートをうれしそうに読んでいる。身近な先輩からの心の込もった助言は，きっと作品にも生かされていくことだろう。

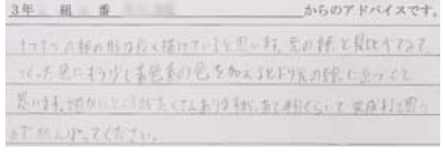
制作中，友達と作品を見合う。

### 先輩からのアドバイスシート

制作途中の作品をカラーコピーして貼り付ける。

作品から想像した物語を800字以内で書く。

**先輩からのアドバイス欄**




制作途中の作品を見て,物語を読んだうえで3年生がアドバイスを記入。昨年同じように模写して作品をつくった3年生からは，具体的なアドバイスが書き込まれる。

### 模写の流れ

作品の上にトレーシングペーパーを仮留めし，輪郭線を写し取る。

輪郭線をなぞってケント紙に写す。

作品をよく見て，絵の具を混ぜ合わせて色をつくっていく。

教科書の掲載作品は教科書の色も見ながら，着彩していく。

ぼかしたい部分は綿棒などを使う。

特集
表現と鑑賞を行き来する



STEP 4

## 絵の中に入り込む

模写が終わると，いよいよどのように絵に入り込むかを決める。

生徒たちは１分間散歩をしたり，模写したり，物語を書いたりする中で，作品を深く鑑賞してきた。最終的に入る場所，ポーズ，大きさを決めたら，いよいよ写真撮影だ。Ｎさん（ページ下）は，絹谷幸二（きぬたにこうじ）の「正夢・一富士二鷹三茄子」という作品に入り込む。太陽をバックに大きな鷹が富士山をキッとにらみつける迫力ある絵だ。Ｎさんは１分間散歩で，太陽の強い光を感じたり，自分が大きくなって富士山を見下ろしたりした。そして，鷹の背中に乗り，そこから富士山を見てみたいと考えた。

写真撮影では,先生と相談しながらポーズを決めていく。鷹の上に乗ったとき,元気よく手を挙げたポーズがいいのか,鷹にしがみつくようなポーズがいいのか,さまざまなポーズをデジカメで撮影し，イメージを固めていく。最終的に，鷹の背中にしがみつき富士山を見下ろすポーズに決めた。

写真を先生にプリントしてもらい，丁寧に自分の姿を切り抜いていく。そしてついに，写真を作品に貼り込む作業。Ｎさんは，薄くのりを付けた自分の写真をそっと鷹の背中に乗せた。微妙に角度を調整した後，ぐっと力を入れ写真を作品に押し付ける。その瞬間，作品の印象が少し変化したような気がした。Ｎさんが入り込んだことで，作品がさらに生き生きと動き出したのだ。

何時間にもわたり鑑賞と模写を繰り返してきたが,ついに作品が完成。Nさんから満足そうな笑みがこぼれた。文化祭で展示されるのも楽しみだ。

作品に入るときのポーズを友達と相談。

試行錯誤を繰り返し，色をつくっていく。

### Nさんの写真撮影・貼り込み

❶鷹の背中に乗ることは決まったが，どのようなポーズにするか，先生に相談。❷撮った写真をテ丁寧に切り抜く。❸写真を作品に貼り込む。緊張の瞬間。❹ついに作品が完成!

# どうやって絵に入る?

**1分間散歩や模写をする中で,何度も作品世界に入り込んできた生徒たち。
さて,最終的に絵のどこにどんなポーズで入るのでしょうか。**



## Sさん

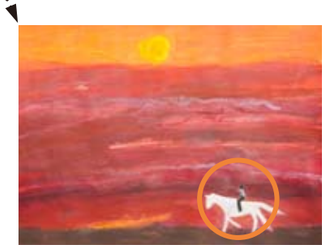
選んだ作品
「渚の白馬」東山魁夷(かいい)

ちょっとこだわり派のS君。集中して制作する。

美しい波を表現するため，細い筆で線を引いていく。1分間散歩では，作品には描かれていないカモメや漁をする人々を見たそうだ。

**馬といっしょに,
この海沿いを
走ったら
楽しそう。**

馬にまたがるポーズに決めた。手をどうするか検討中。



馬にまたがり，手を上げて颯爽と浜辺を走るＳ君。

## Oさん

選んだ作品
「大きなテーブル」ルネ・マグリット

美術部のＯさんは，絵を描くのが大好き。

「この絵は上と下で違う時間が流れていると思う。上は夕方で下は朝」と話すＯさん。この幻想的な世界にどう入り込むのか。

**この不思議な
島に流れ着いた
漂流者に
なりたいな。**

浜辺に流れ着いたことを表現するため，うつ伏せのポーズ。

マグリットの不可思議な世界に漂流したＯさん。

## Hさん

選んだ作品
「二つのバラ」ルネ・ジェニー

いつも丁寧に作品を仕上げるＨさん。

作品を見つめ，色合いを確認。1分間散歩では，「このバラは造花かもしれない。本物と造花，どちらなんだろう」と思ったという。

**この作品は
花が主役。
バラを見つめる
ような場所に
入りたい。**

バラを見上げるポーズ。首の角度をしっかり確認する。

机のふちに腰かけ，バラをじっと見つめるＨさん。





# いよいよ,文化祭!

九段中等教育学校では，毎年９月に九段祭(くだんさい)が行われます。合唱・演劇・ダンスなど,6学年の生徒たちが日頃の活動の成果を披露し，非常に活気のある文化祭です。

今回「名画に入り込もう!」の授業で制作された作品は，額に入れ廊下に掲示。大人から子どもまで多くの人たちが足を止め，作品に見入っていました。制作した生徒たちは，その様子をはにかみながら見守っていました。

制作した生徒たち。
作品の前で，先生とパチリ。

クラスメイトの作品に見入る。

「あっ，ここに人がいる!」。
作品の中に貼り込まれた写真に気づき，指さす子どもたち。

ジャンプするのが好きだから，この作品の中を飛んでみたいと思った。全体を見渡せる太陽の中に入りました。

K君

選んだ作品
「晨（しん）」沢（さわ） 宏朝（こうじん）

選んだ作品
「水辺の朝」東山魁夷

とげとげしい草に囲まれた寂しそうな場所にいる馬。そんな馬を遠くから優しく見守りたいと思いました。

N君

Iさん

この絵は日の出の場面だと思う。山頂で朝日を感じたいと思い，強い光がまぶしいというポーズにしました。

選んだ作品
「暁」和田英作

## 授業を終えて
### ――自分の見方で作品を鑑賞していってほしい

この「名画に入り込もう！」は，本校に赴任してからずっと続けている実践です。今年は新たに「１分間散歩」という活動を取り入れました。自分なりの見方で作品を鑑賞するおもしろさをもっと感じてほしいと思ったからです。生徒たちはこの活動によって，「冷たい風が吹いていた」，「海の向こう側に島が見えた」など，絵には描かれていないことも見たり感じたりし，作品世界にどんどん入り込んでいきました。そのためか，最終的に絵のどこに入るかを決めるとき，「ここに入りたい」と迷いのない子が多かったように思います。

模写をするのには時間がかかります。作品と向き合いながら，何度も色をつくり直したり，色合いを見ながら慎重に色を重ねていったり……仕上げていくのには根気が必要です。大変かもしれませんが，作品ができあがったとき，生徒たちは「ここまで自分は描けるんだ」「作品に愛着をすごく感じる」「達成感がある」などと話していました。真剣に作品と向き合い，制作していったからこそ，こういう言葉が出てきたのだと思います。この授業では，作品制作にじっくり取り組む喜びも感じてもらえたら，うれしく思います。

小野征一郎（おの・せいいちろう）　落合良美（おちあい・よしみ）

# 授業を参観して

光村図書中学校『美術』の著作者である上野行一先生に，今回の授業を参観していただきました。

上野行一
うえの・こういち

大阪府生まれ。帝京科学大学教授。
大阪教育大学大学院修了。
広告デザイナー，公立学校教諭，
高知大学教育学部教授を経て2010年より現職。
著書に『私の中の自由な美術』（光村図書）など。
NHK 高校講座「芸術（美術Ⅰ）」の
番組の監修を務める。
光村図書中学校『美術』教科書の
著作者でもある。


## 主題を生み出す鑑賞「１分間散歩」

「名画に入り込もう！」の授業は，絵を鑑賞して模写し，自分の写真を貼り込んで作品をつくり，学校行事の九段祭（文化祭）に展示することをねらいとしています。６年間一貫教育の中等学校ならではのユニークなカリキュラムであり，教科書の題材を実践した授業ではなく，どこの学校でも実践できるものではないということをお断りしておきましょう。

模写をすることは作者の表現過程を追体験することです。しかしそれは作者の表現をそのままたどる行為ではありません。「ここはどのような手順で描いたのかな」「この色はどうしたらつくれるだろう」「これはいったい何を表しているのだろう」と自分なりに作品と向き合い，自問自答し，自分の解釈で表現する行為です。言い換えれば模写とは，作品に対する自分なりの鑑賞を手がかりにして，自分なりの表現を組み立てる行為といってよいでしょう。

とはいえ模写するだけでは，学習指導要領のＡ表現（１）で示されている，主題を生み出すことや創造的な構成を工夫するなどの発想・構想に関する事項の指導につながりません。模写をしながら感じ取ったことや考えたことをもとに，生徒たちが主題を生み出すための〈学びのしかけ〉が必要なのです。

この授業では模写を終えた段階で自分の写真を貼り込むという〈学びのしかけ〉が設定されています。模写をもとに強く表したいことを心の中に思い描けるようにし，ポーズや表情を考え，どこにどのように自分を入れるかを生徒たちに考えさせるのです。

そのためには意図的な鑑賞が欠かせません。

落合先生と小野先生の授業では，毎時間「１分間散歩」と称して絵の中に入り込む時間が設けられています。

しかも「小さくなって絵の中に入り，自由に散歩しましょう」とか，「大きくなって空から絵全体を見渡してみましょう」とか，「その絵は何時頃の絵でしょうか。絵の時刻を決めたら，その12時間後に散歩してみましょう」などと，毎回違う視点で絵の中を散歩するのです。

たとえば，ルネ・ジェニーの「広大な青さ」に小さくなって入り込んだ生徒は，手前に描かれた砂浜を掘り起こし，砂の中に小さな貝を発見しました。また鳥になって空から対岸に近づいてみると，描かれた山に登山者がいることに気づきました。しかし，貝も登山者も実際には描かれていません。絵の中を散歩した人だけが知ることのできる秘密を，絵が教えてくれたのです。

小さくなったり鳥になったりして何度も絵の中に入り込み，散歩を繰り返すことによって，絵はしだいに生徒にとってなじみ深い存在になります。こうして写真を貼る段階では，もはやその絵は生徒自身の作品になっているのです。